

法説辻

岩手県菅洞宗布教師会三分間法話

三つの願い

大船渡市吉浜・正寿院住職

柿崎昌源

この話は、三つのお願いと

いう、インドに昔から伝わる古い物語で、物語には、女神様と女神様と、貧しい農民の家族が登場します。農民の家族は、父親と母親と多感な年頃を迎える息子の貧しい農民の三人家族です。

神様と女神様はいつものように旅をしていると、父親が荷車を引き、母親が後ろを押し、そして、息子を荷車に乗せて、ともにぼろを纏っている貧しい農民の家族を見ていた女神様は「あの貧しい農民は、一日中過酷な労働をした挙句あのように食うや食わずの生活です。あの可哀相な農民の一家を何とか助けて下さい」と女神様は、神様に懇願しました。しかし神様の返事はつれなくも放っておけと

いうものでした。

それでも女神様が頼むので、あまりのしつこさに神様も折れ、一人に一つずつ願い事を叶えることにしました。

女神様は「あなたから願い事を頼みなさい」と一家の母親を指して言いました。母親は「それでは、私は世界一の美人になりたい」と言いました。神様は母親の願いを叶えてやりました。

そこに通りかかったのがこの地方一帯を治める領主の息子とその従者でした。領主の息子は自分の花嫁を探すため、お城で舞踏会を開くべく村々を回って、そこそはと思う美しい女は着飾ってお城に集まるようお触れを出して回っています。領主の息子はその母親を見ると、この女性こそ自

分の妻に相応しいと思いい、そして馬に乗せて連れて行ってしまいました。

父親は、そんな妻の態度に怒り狂い「あんな薄情な女なんかは豚にして下さい」と神様にお願いをします。神様は父親の願いを叶えてあげました。

領主の息子は自分の花嫁はこの女性以外考えられない。城に帰ったら早速結婚式の準備をしようと思っていました。ところが、馬の後ろに乗っているはずの絶世の美女が豚に変わっているのを見て驚き、豚を馬から放り投げてしまいます。次に神様は、幼い息子に願い事を言えと迫ります。自分たちの前に突然神様と女神様が現われ何でも願い事を叶えてくれるという。

そしたらどうだろう、父親はかんかん怒っているし、母親は豚になって走り回っている。今までは貧しいとは云えそれなりに平和に暮らしてきた。それが突然この有様だ。「もう、沢山だ。元に戻してくれ！」と息子は神様に頼みました。

すると、神様も女神様も消えて、以前のように父親は自分の乗った荷車を引き、母親は後ろから押しています。そして、夕暮の中、貧乏な農民の一家は家路に就いていました。

女神様は貧しい農民の姿をみていたく同情し、神様は心に渴きを感じている人に、ありったけの愛情を注いで渴いた心を満たさせていました。私たちは心を基準にして人を見る習慣を失っていません。私たちが人を見るときは、その人に張られたラベルだけを見ている。そんな属性ばかりをみて人を判断して、有難がったり、見下したり、尊敬したりしてはいないだろうか。